

令和6年度神戸GCP 理学Nanyang コースに参加して

「積極的な行動が自分を助ける」

理学部物理学科2年 H.N.

5年ぶりのシンガポール訪問で今までにないほどの刺激を受けた。海外留学は私の大学生活の中での目標の一つだった。「英語で授業を受けて、外国人の友達を作り、その友達と一緒に有名な観光地に行く」そんな理想を描いたが、3週間しか行けなかったということもあり少し理想とは異なる留学であった。しかし、自分から進んで行動することによって海外でしか得ることのできない貴重な経験をすることができたと思う。留学中の体験を「授業」、「生活」の2点に分けて紹介していこうと思う。

まず授業についてである。私は物理系の4つの授業を受けた。大学1年レベルのものから大学3年レベルのものまで幅広く受けた。特に物性物理学の授業はこちらで受講していないものであったため、理解するのに苦労した。そんな時に周りにいた学生に声をかけると親身になって教えてくれた。そこから連絡先を交換するほどの仲にもなったため、自分から積極的に行動することがいかに大切か分かった。波動、熱力学などの授業は比較的易しかったので授業内で内容を理解しきれることが多かった。ただ、どの授業でも復習は欠かさずに行っていた。私が受けた授業は週に2回授業を行うものがほとんどで1回分の復習をサボってしまうと授業についていくことが難しくなるため復習を大切にしていた。また、南洋理工大学では講義、チュートリアル（少人数での演習）の2つの形式があった。特にチュートリアルの授業は少人数ということもあり、チューターの先生が手取り足取り教えてくださり理解が深まった。こうしたところからも、シンガポールの国立大学の学生への手厚さが窺えた。このプログラムでは「Beef Plus」の南洋理工大学版に私はアクセスできなかったため、授業の資料などは全て教授からメールで受け取るという形だった。物理系の教授は皆優しく、授業終わりに挨拶に行っても笑顔で対応して下さったので教授たちにはとても感謝している。この経験を通して、英語でメールを送るということに一切の抵抗がなくなった。

次に日々の生活について書いていく。留学中はLoh先生の研究室に滞在させていただき、その研究室の生徒と昼ご飯・晩ご飯を食べたり、休日に観光に行ったりした。現地の学生との英語でのコミュニケーションを通して自分の英語力の向上に努めた。研究室の学生さんは、ひたむきに実験をしており毎日忙しそうな様子ではあったが、どこか楽しそうな雰囲気もあった。自分が研究室に配属されたらこのような生活を送るのだろうという想像も膨らませることができた。特に私のチューターとなってくれたJustinの存在が大きかった。大学に行った初日ももちろん教室がどこにあるかも分からない。さらに、Loh先生の研究室に入るためのセキュリティカードも持っていなかった。そんな状況であったがJustinが毎回授業終わりに迎えに来てくれて、彼にはとても優しくしてもらった。Justin達とほぼ毎日昼ご飯を食べに行き様々な話をした。シンガポールの人々の食文化や娯楽について

て等々、正直何を話したのかはほとんど覚えていないがそれぐらいたくさん英語に触れて英語を話す機会があったのだと思う。また、大学がない休日にも Justin や彼の友達と一緒にシンガポール市街を観光することができた。特にマーライオン公園から見えたマリーナベイサンズの夜景はとても綺麗だった。ぜひ見てほしい。休日にはシンガポールで有名なホーカーセンター（フードコートのような場所）に行き、シンガポール特有の料理を食べることができた。日本でも有名でありマクスウェルフードセンターにあるチキンライスのコスパが非常に良く、この留学の中で一二を争うほど美味しい料理であった。この留学ではホームステイ等をするのではなく、ホテルステイだったので生活をする上での支障は少なかった。ホテルのレベルにもよるが、シャワーを浴びるとトイレがびしょびしょになるホテルに泊まったのでそこは注意が必要であった。シンガポールは治安がかなり良い国で、夜一人歩きをしても特に問題ない地域であったので生活面に関してはかなり恵まれていたと思う。

航空券の購入、ホテルの手配そして自分が受ける授業の履修まで全て自分一人で行った経験は確実に今後に活かされると思っている。渡航1週間前に eSIM を購入したり、シンガポールについて2週間程経過した時に風邪を引いたり、様々な問題は発生したが何とか3週間の留学を終えることができた。留学の準備も含めて自分一人でやるという経験はとても貴重であったから、この文章を読んで下さった人にはプログラムを通して留学することを強く勧めたい。



左から3人目がチューターを務めてくれた Justin、左から5人目が私、そして右から4人目が Loh 先生

(ラッフルズマリーナ：夕食会場にて)